

# 水曜通信 2

東北学院宗教センター編

2020年  
10月

LIFE

LIGHT

LOVE

## 「逆風に悩まされる小船」

今年に入ってから教育活動も生活様式もコロナ禍対策に追われ、水曜公開礼拝も9月からようやく動画で配信を始めました。慌しく、不自由な中で、早く元の生活に戻りたいと焦りがちですが、この状況下で出来ることに鋭意努力したいものです。

マタイによる福音書第14章24節には、主イエスに命ぜられて弟子たちが湖へ漕ぎ出すと、途上「逆風のために波に悩まされていた」とあります。こういう出来事は何度かあったようです(8:23)。しかしこのような時に、主イエスは弟子たちのもとに近づいて来てくださいます。

私たちの活動も船出したら、すぐに逆風に悩まされているかのようなのですが、「安心しなさい」(14:27)という主イエスの声に信頼して、今出来ることに専念しましょう。



東北学院大学泉キャンパス礼拝堂  
ステンドグラス

宗教センター主任(宗教部長) 野村 信

### 次回：第36回水曜公開礼拝(公開オンライン礼拝)10月21日配信予定

【第1部 礼拝】 説教：鐺木 道剛(文学部教授)  
奏楽：小野 なおみ(本学礼拝オルガニスト)

【第2部 オルガン演奏による賛美】  
鈴木雅光氏(東北学院中学校・高等学校教諭)作曲のオルガン曲での賛美。  
演奏：小野 なおみ(本学礼拝オルガニスト)

## 第35回 水曜礼拝報告（説教：野村信、奏楽：今井奈緒子）

2020年9月16日（水）「聖書の学びとオルガンの調べ」 公開オンライン礼拝

讃美歌：1番「神のちからを」

旧約聖書：イザヤ書 40章6～8節

讃美歌：187番「主よいのちのことばを」

新約聖書：ヨハネによる福音書 1章1節

説教：「神の言葉はとこしえに」

頌栄：542番「よをこぞりて」

### 【説教要旨】

預言者イザヤは、「草は枯れ、花はしほむが、わたしたちの神の言葉はとこしえに立つ」と未来に告げました。なるほど、私たちの周りのすべてのものは変化しますが、神の言葉は語り告がれています。この宣言は、いずれヨハネが福音書の冒頭で、この「神の言」が体をもって世界に現れたと、喜びをもってキリストを指し示しました。「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた」（14節）と。（野村 信）

前奏：L. クレープス コラール編曲「おお永遠、汝<sup>いかなぢ</sup>雷の言葉」

後奏：G. ベームコラール編曲「大いに喜べ、おお我が魂よ」より第11節

この日のために選ばれた聖書箇所ヨハネによる福音書第1章第1節と、説教題「神の言葉はとこしえに」に因み、大バッハの優秀な弟子であったクレープスのコラール編曲を選びました。一方後奏は、大バッハがリュネブルクの聖ミカエル教会聖歌隊で歌い学んでいた頃、大いに影響を受けたベームによるコラール編曲の一変奏です。（今井 奈緒子）



## 礼拝後、今井奈緒子（大学オルガニスト）によるオルガンの調べ

<音楽による賛美について>

J.S. バッハ作曲：トッカータとフーガ ニ短調BWV565

同：コラール編曲「主よ、人の望みよ喜びよ」教会カンタータBWV147より

トッカータとフーガ ニ短調BWV565の自筆譜は残っておらず、18世紀後半の、バッハと邂逅のなかった孫弟子リンクの筆写譜によって伝えられています。そのため本当にオルガン曲か？という議論を呼び、昨今ではヴァイオリン独奏による演奏も聴かれるようになりました。高校生の時に初めて学んで以来、何度も弾いたり聞いたりしてきましたが、久しぶりの今回も若きバッハのほぼしる情熱に改めて鼓舞される思いでした。「主よ、人の望みよ喜びよ」は、ライプツィヒで1723年の「マリア訪問の祝日」礼拝用に書かれた教会カンタータ「心と口と行いと生活とををもって」BWV147の第6曲と第10曲に置かれている、M.ヤーン作詞 J.ショップ作曲のコラール編曲（合唱曲）です。この邦題は「Jesus, man's joy and desire」という英語題に由来していますが、どちらも絶妙な翻訳と感じます。なぜならこのコラールは、心にイエスを抱く者の喜びと希望を、そして「イエスは私たちの命の力である」と歌うからです。2014年の「宗教音楽の夕べ」でこのカンタータ全曲を、中高大合同の合唱団、声楽ソリスト、器楽アンサンブルで演奏した時の感動を思い起こします。廣野嗣雄によるオルガン用の名編曲でお届けしました。（今井 奈緒子）



## 東北学院の草創期 (1) 「創立の事情」



最初の生徒と教師(1886年)

我が東北学院の「創立の事情」については、30年前に発刊された『東北学院百年史』に詳しく書かれていますが、約1300ページで7センチもの厚さのある書物に目を通すことは容易ではありません。

そこで、東北学院がささやかな誕生を迎えた頃に帰って、「だれが」、「いつ」、「どこで」、「なにを」、「どうして」、「どのように」という書き方に従って、これから数回にわたって記してみたいと思います。

創立25周年を迎えた1911（明治44）年7月発行の『東北文学』記念特別号には、次のように書かれています。「明治十九年六月を以て開校せられたる我が仙臺神學校は、一小塾の如きものにして、教ふるものは僅かに押川、ホーイの兩先生に過ぎず、學課の如きも只聖書講義と時々精神講話のみにして、今日の如く授業時間に一定の制度なく、午後は大抵力を角して心身を練り、元氣旺盛當たるべからざるものありき。」

まさに創立当初の自由奔放な活き活きとした雰囲気を感じられます。（東北学院史資料センター 日野 哲）

## 一 建築との対話：礼拝堂建築調査の現場から (8) 一

新型コロナウイルス感染症が急速に拡大する直前の2月に、愛媛県松山市の「松山東雲中学・高等学校」を訪ねました。東北学院と同じ明治19（1886）年創立の私立松山女学校を起源とする、歴史ある学校です。

横浜を中心に活躍した建築家J.H.モーガンは、その作品を、北端を仙台、南端を松山とする各地に遺しました。今回の訪問の目的は、南端のモーガン遺産である同校の「校門」と、その設計図面の調査でした。

東雲中学・高等学校は、松山城に隣接して建てています。その場所性・歴史性の強さから、第3代ホイテ校長は校舎の建設に際して「和」を志向し、モーガンがその想いを形にしたと伝わります。大正末期～昭和初期のことですから、東北学院の一群の施設を設計したのと同じ時期です。つまりこの時、モーガンは、南北のキリスト教系学校の施設を、まったく対照的なデザインで設計していたこととなります。建築家は、自らのデザインを追求するだけではありません。とりわけモーガンの多彩さは、同時代的に見ても出色です。今回の調査は、南北のモーガン遺産が、彼の適応力の高さを示す一対の遺産と捉え得ることを確認するものとなりました。（崎山 俊雄）



松山東雲中学・高等学校 校門外観(正面)



二階に内部空間(旧教師住居)をもつ

## ランカスター神学校のステンドグラス



中世の窓



ルターの窓



宗教改革の窓



ハイデルベルク信仰告白の窓



サンテエ (Santee) 礼拝堂、1925年  
2017年12月4日撮影

ホーイ先生とシュネーダー先生の出身校のランカスター神学校のサンテエ (Santee) 礼拝堂は1925年に改築されたもの。そこには8面の窓にステンドグラスがはめ込まれており、旧約、新約、使徒、それに中世、ルター、宗教改革、ハイデルベルク信仰告白、それに伝道の窓(『水曜通信』第10号参照)があります。中世の窓には、アウグスティヌス、アッシジのフランチェスコ、そしてヤン・フスが描かれ、ルターの窓にはルターの生涯から3場面、宗教改革の窓にはツヴィングリ、カルヴァンそしてジョン・ノックス、ハイデルベルク信仰告白の窓にはフリードリヒ3世敬虔王、オレヴィアヌス、ウルジーヌスが描かれています。ドイツ改革派の神学校ではありますが、中世のアウグスティヌスやカトリックの聖フランチェスコも描いて、宗派を超えています。そしてルターに窓一面を割いて、最後にカルヴァン派の信仰問答書であるハイデルベルク信仰告白の立役者たちを描いて伝道の窓につながっていくのです。

(鐮木 道剛)



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー  
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」  
第2号

2020年10月9日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1

発行責任者：宗教センター主任 野村信

編集協力者：鐮木道剛

東北学院宗教センター TEL：022-264-6558

Email：c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp